

民生委員・児童委員の活動を発信!!

Well ウエル おおさか

34
2016.2

特集

- ◎生活困窮者を地域で支える
羽曳野市民児協・柏原市民児協
- ◎災害時を想定した要援護者支援
東大阪市民児協連

◎イキイキ ハツラツ
民生委員・児童委員さん
富田林市民生委員児童委員協議会

民児協だより
島本町民児協／四條畷市民児協
松原市民児協／阪南市民児協



羽曳野市民児協 「子どもの貧困・居場所づくり」

羽曳野市では市民グループ(Habikino Children's Support Network 通称チルサポ)が夕方の居場所づくりを実施しており、民生委員・児童委員も事業に協力しています。

ひとり親家庭や虐待を受けた子どもが地域に増えている現状もあり、民児協として子どもたちに何ができるのか、支援内容の検討を目的に、平成27年度は研修会を実施。今後は定例会等で検討を重ねながら取組みを進めていきます。

生活困窮者を 地域で支える

今号は、大阪府民児協連がこのテーマで助成した羽曳野市民児協(平成27年)、柏原市民児協(平成26年)の取組みを紹介します。

講演



「子どもたちの6人に1人は貧困」と
講師の幸重忠孝さん

講師の幸重さんは児童養護施設に勤務していた経験から、お金がなくて夢を叶えることができなかった子どもたちについて事例を通して報告しました。また、「現在の日本では、戦後の衣食住がないような困窮状態(絶対的貧困)はあまりないかもしれない。しかし、小中学生が乳幼児の育児や家事に追われる、また、電気やガスが頻繁に止まる生活(※相対的貧困)によってしんどい思いをしている子どもたちが地域にたくさんいる」と地域や学校では見えにくい子どもたちの現状を語りました。

その後、太子町で居場所づくりに取り組むボランティア団体 Sunny Side Standardの谷口由佳子さんとチルサポの福瀬啓子さん(後述インタビュー)からやりがいや効果について実践報告がありました。

まとめとして、「誰もが貧困に陥る可能性がある。子どもたちにとって地域とのつながりや、やさしくしてもらえた経験が今後の人生を送るうえで大きな糧となる。できることから活動を進めてほしい」と幸重さんは、結びました。

※相対的貧困とは
世帯の可処分所得がその国の全世帯の中位値の半分に満たない状態。2012年のデータでは年間手取り所得が122万円(1人世帯)未満の人々をさす。

活動を継続、発展させていくためには、地域住民、関係機関との連携協働はもちろん、行政の支援が不可欠です。

今後は、民児協として、夕方の居場所づくりや長期休暇中の子どもの支援などを地域の中で検討し、できることから進めていきたいと
思います。

羽曳野市民児協会長
岡島 和子さん



子どもの貧困に地域でできること ～ひとりぼっちのないまちづくり～

日時 平成27年10月30日(金) 14時～16時半
会場 羽曳野市民会館(大ホール)



講師 幸重社会福祉事務所
ゆきしげ ただたか
幸重 忠孝さん

参加者 155人(全委員対象)

インタビュー



Habikino Children's Support Network
(通称 チルサボ)

主任児童委員 福瀬 啓子さん

★活動に参加したきっかけ (必要性)

障害児通園施設に勤務していた頃に、障がい児を育てている家庭の大変さを間近に見てきました。退職後、主任児童委員になり、活動のサポートの依頼があったときは、地域のために何か自分のできるがあればとお受けし、現在、調理を主に担当しています。

★活動に参加してみて

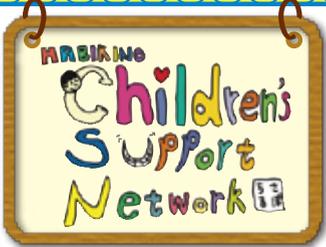
参加しているのは社協から紹介された子どもたちです。学校や家庭に安心できる居場所がない子どもたちも何度か参加するうちに、いきいきしてきます。親御さんや学校の先生方から希望があれば、参加していただくこともあります。

ここは子どもをしつける場ではなく「育ち合いの場」です。大人が支援し、子どもが支援されるのではなく「子どもとスタッフがひとつの家族」になれるような場所であってほしいと思います。

★子どもの貧困について 向き合っていくのが

「貧困家庭の支援」と難しく考えるのではなく、育児不安や育てづらさなどで悩んでいる親や子どもを、地域のおばちゃんとして支えていけたらと思っています。

民児協の仲間にも声を掛け、参加協力してもらうことで活動を理解してもらっています。今後、同じような取り組みが地域の特性を生かした形で広がっていくために、民生委員・児童委員だけではなく、地域で興味をもってくれる応援者を増やしていきたいです。



Habikino Children's Support Network

活動日 毎週木曜日

活動メンバー 行政・社協職員、民生委員・児童委員
NPOスタッフ、市民、大学生など(20人)

参加者 小学校4年生～中学校2年生(男女12～13人)

参加費 子ども200円 スタッフ300円

活動沿革 平成26年9月～準備開始
平成26年12月～プレオープン
平成27年2月5日スタート

協力者 お肉屋さん、そうざい屋さん
地域住民
(くつばこやガス台を制作)



ちらしずし

デミオムライス

やきそば

手作りの温かい料理に子どもたちは大満足



地域福祉活動部会が中心となり、実施しました。

柏原市民児協「ひとり一品運動」

実施日 平成26年12月7日(日) **イベント** 柏原ふれあい広場

事前に社協の広報紙等で事業をPR。当日は民児協のブースを立ち上げ、家庭に余っている賞味期限が1ヶ月以上残っている保存の効く食品の寄付を呼びかけました。156件(※事前事後含む)の寄付があり、社協の相談窓口を通じ、支援が必要な方に渡しました。

今年度から生活困窮者支援制度が施行され、民生委員・児童委員には生活に困っている人の**発見**、制度への**つなぎ、見守り**の役割が期待されています。

失業、病気、離婚など誰もがちょっとしたきっかけで生活困窮に陥る可能性があり、地域で孤立し、重篤な状況になって発見されることも少なくありません。

ぜひ、自分たちにできることを地域住民や行政、社協、NPO、その他地域の団体とともに連携・協働しながら検討し、できることから取り組んでいただけたらと思います。

この支援を通じて、地域にはこんなに生活に困っている人がいることを民生委員・児童委員としてはじめて実感できました。

また、多くの地域住民が関心をもち、寄付してくれたことで、1人の力では難しいことも、地域で力をあわせ、支援の輪を広げていくことの重要性にも気づくことができました。

後日、支援を受けた人の喜びの声を社協から聞き、今後も、自分たちのできることからやっていきたいと思います。

地域福祉活動部会長
中村美恵子さん

福祉と共生のまちづくり研修会 日常の福祉力を減災力につなげるために

日時 平成27年12月22日(火)

13時半～16時

会場 大阪府社会福祉会館501

講師 NPO法人さくらネット代表理事
石井 布紀子さん

参加者 145人



特集

災害時を想定した要援護者支援

近年、局所的な集中豪雨による災害が毎年発生するなど、いつ、どこが被災地になるか分からない状況が発生しています。大阪府民児協連・地域福祉部会では今年度、災害時を想定した要援護者への支援を重点事業の1つに掲げ、調査と研修会を実施しました。

今回は、大阪府民児協連 福祉と共生のまちづくり研修会と、昨年度、本会がこのテーマで助成した東大阪市民児協連の実践を報告します。

講演



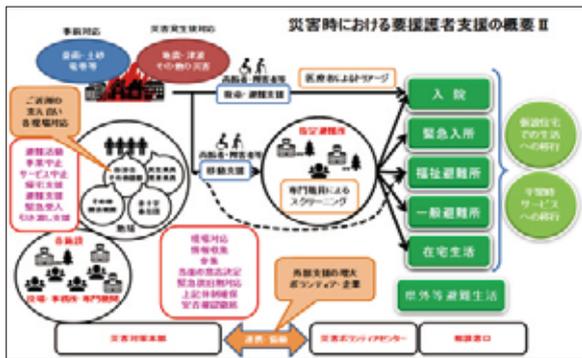
「民生委員・児童委員のみなさんの活動には本当に感謝しています」と講師の石井さん

講師の石井さんは、ご自身が阪神淡路大震災に被災した経験と東日本大震災など全国各地での災害支援活動をもとに有効であった取り組みについて事例を用いて報告。

とくに、見守りなどの訪問型の活動やサロンなどの集い型の活動、お祭りやイベントなどの地域行事等、日頃の地域福祉活動こそが、減災力を高めるといってお話がありました。

また、災害時における要援護者支援の概要の解説を通して、「事前対応ができる豪雨・土砂災害については、支援が必要な人に本当に必要な時は避難をできるだけ早く呼びかけること、そしてそれを通じてもらえる日頃からの信頼関係が大切。地震や津波の時には、救助が必要な人をふりわけるコーディネーター役を民生委員・児童委員がすることで、自治会や消防団に早期救助を依頼することが重要だ」と述べられました。

さらに、避難場所や危険個所を見える化するマップづくりに取り組んでいたことが、災害時に活かすとして、東日本大



民生委員・児童委員自身が救助に行くのではなく、地域団体とうまく連携し、役割分担することが重要(研修会資料より抜粋)

震災の釜石小学校の取り組みを挙げ、マップ作成の有効性を強調。民生委員・児童委員がもっている「個人情報」をエリアごとに数値化するなどの「状況情報」に変え、マップに落とし込むことで支援が必要な人の個人情報をつまぐ地域住民と共有できることを紹介しました。

演習では、参加者の担当地域での訪問型や集い型の福祉活動・地域活動について、6名程度のグループで成果や強みについて情報共有しました。

参加者からは、「日常の福祉活動が減災につながることを改めて実感できた」、「発災後の時間経過に応じた地域の対応を他団体と共有し、災害時に応用のできる訓練をしていきたい」という声があがりました。

実践報告

東大阪市民児協連 「地域のつながり」を支え合いを大事に

東大阪市では寝たきり、ひとり暮らしの高齢者調査や見守り訪問など日常的な支援を行いながら、要援護者台帳やマップの作成、地域の防災訓練など行政、社協、地域住民と協力し、災害時人も見逃さない運動を進めています。

さらに、校区委員長研修として被災地の視察研修を実施。平成26年度は伊勢湾台風(昭和34年)で被害を受けた愛知県名古屋市中に、今年度は広島市土砂災害被災地へ行きました。そこでは、被災した時の安否確認の方法や被災後に地域住民とボランティアとのつなぎ役を民生委員・児童委員が行うことで住民が安心してボランティア活動を受け入れられたという報告を受け、災害時の役割について理解を深めました。「いつ起こるか分からない災害に備えて日頃から『地域のつながり・支え合い』を強化することで、災害時支援に生かしていきたい」と東



長福永亮 さんは語ります。

大阪市民
児協連会
長福永亮 氏

全国民生委員 児童委員大会&活動交流集会

～富山市、高岡市で開催～

富山大会

全国から3,400名超の 民生委員・児童委員が参加



オープニングでは、福光もちつき太鼓保存会により歓迎と祝賀のもちつき太鼓が披露

● 式典・活動交流集会

平成27年10月15日・16日

初日の式典では、全民児連堀江正俊会長が、民生委員制度が平成29年度に創設100周年を迎えることについて、それぞれの時代で強い使命感と情熱をもって活動してきた先輩の努力や思いを確実に次世代に引き継ぎ、いつも住民の「心のよりどころ」となり、安全で安心して生活できるまちづくりを歩んでいくと話しました。

また、塩崎恭久厚生労働大臣のあいさつでは、これからの地域社会の健全な発展は、民生委員・児童委員の存在なくしてはあり得ないと、民生委員・児童委員に対する大きな期待が述べられました。

表彰式の後、株式会社熊谷組相談役の太田弘氏から、「クローン」が遺したものの「志の連鎖」と題した特別講義がありました。敗戦後の復興にあたって深刻な電力不足に直面していた関西地区の救世主となった「黒部川第四発電所(クローン)」の建設にあ

たつては、様々な困難を伴いました。特にダム建設の成否を握る資材運搬トンネルの掘削は難航を極め、「山を降りる」作業員が続出。7か月間にわたる苦闘の様子を紹介し、不可能といわれた破砕帯を突破できたのは「トンネルを抜くためにはどうしたらよいか、発注者と元請・下請けが立場を超えて心が一つになったこと」と志の連鎖を説きました。

また、建設にかかわった延べ1000万人の中に関係者として記録されているのはごく一部だが、無名の多くの人々にそれぞれの誇り、クローンがあつてこそ、世紀の偉業を成し遂げられたと「駕籠に乗る人担ぐ人。そのまた、草鞋を作る人」という格言をひき、民生委員・児童委員の使命感と地道な活動を称えました。

2日目の活動交流集会では、10のテーマに分かれ、委員活動に関する情報交換や意見交換を行いました。

● 視察研修

平成27年10月14日

大会参加に伴い、前日に「金沢子ども医療福祉センター」で視察研修を行いました。児童支援課の高木大輔氏から、センターの概要説明を受けました。昭和33年に開設した肢体不自由児施設石川整肢学園を前身とし、平成18年の移転を機に現在の名称へ変更。肢体不自由児のみならず知的障がい児や重症心身障がい児(者)を対象に、病院事業から入所、在宅支援と幅広い事業を展開しています。

施設内は広々としており、27年春に開通した北陸新幹線が見える待合室や居室、リハビリテーションや保育の様子など、一人ひとりに合ったオーダーメイドの医療と福祉の提供の現場を見せていただきました。



新幹線が見える待合室は子どもたちに大人気

● 大会宣言

- 一、支援を必要とするすべての人びとが孤立することのないよう、日々の見守りや相談活動に取り組み、早期に必要な支援につなぎます。
- 一、住民の多様な生活課題に対応するため、地域の幅広い関係者との連携に加え、住民参加による支えあいのまちづくりをすすめます。
- 一、子どもを虐待やいじめ、犯罪被害から守るとともに、貧困の連鎖を断ち、子どもの夢と希望を実現できる社会づくりに向けて、地域ぐるみの支援に取り組みます。
- 一、東日本大震災をはじめとする被災地の人びとや、そこで活動する民生委員・児童委員への支援とともに、災害に備えた地域での取り組みをすすめます。
- 一、基本的な人権についての理解を深めるとともに、個人情報等の取り扱いなどに常に留意し、住民や関係機関・団体との信頼関係に基づく活動をすすめます。
- 一、民生委員児童委員がその力を発揮できるよう、活動しやすい環境づくりのため、市区町村、都道府県指定都市、全国の各段階における取り組みを二層すすめます。



ひとり暮らし高齢者交流会で民生委員・児童委員が揃い法被で踊りを披露しました。



生バンドの演奏やカラオケで楽しんでいただきました。



ひとり暮らしの高齢者宅に電話をし、孤独の解消とともに安否確認をします。

平成27年度 全民児連 会長表彰 優良民児協表彰 ～泉佐野市民児協～

ひとり暮らし 高齢者の見守り

泉佐野市民児協では毎年ひとり暮らし高齢者の実態調査を実施しています。ひとり暮らし高齢者のお宅を訪問し、生活実態とともに通院や介護施設の利用状況、緊急連絡先などの聞き取り調査を行います。

調査のときには友愛電話訪問活動の希望をお聞きし、希望者には民生委員・児童委員が月1回程度高齢者宅に電話をします。安否確認とあわせ、高齢者の孤独の解消にもつながっています。

また、市内3カ所に分かれて年に1回ひとり暮らし高齢者交流会を開催しています。毎年出しものをいろいろと工夫

し、民生委員・児童委員のフォローアップを披露したりして高齢者に楽しんでいただき、交流を通じて地域の民生委員・児童委員とのつながりを深めています。

その他、民生委員・児童委員は各地区の福祉委員会の主要メンバーとして、日常的な見守りやふれあいサロンの運営に積極的に携わっています。

子育ての支援

「中学生乳幼児ふれあい交流会」では中学生に参加を呼びかけ、子育て中の親子との交流を通じて命の大切さを学び、母性、父性について考えてもらいます。お母さん方にとっても、日ごろ赤ちゃんが触れ合う機会の少ないお兄ちゃんやお姉ちゃんに遊んでもらえることで喜ばれています。

親と子のふれあい人形劇のついでには就学前の子どもを持つ親子をお招きし、民生委員・児童委員が演じる人形劇や紙芝居などで楽しんでいただきます。そのために日ごろから人形サークル所属の委員が練習を積んでいます。また、手作り班では子ども達にプレゼントする手作りのお土産を作っています。

学校との連携を図るため、市内各小中学校で年に1回学校関係者と民生委員・児童委員の懇談会を開催しています。校長や養



就学前の親子を招いて民児協人形劇サークルの人形劇や紙芝居を披露しました。



中学生が赤ちゃんに触れたりお母さんのお話を聞いて父性、母性を育みます。

民児協について



市内各小中学校で民生委員・児童委員が校長先生や教育委員会の指導主事ほかと懇談し情報交換を行います。

護の先生及び教育委員会の指導主事と民生委員・児童委員が情報交換を行い、地域の子どもの健全な成長をサポートします。

その他、子育てサロンの運営や障がい者施設の行事などへの協力参加など、地域で安心して暮らせるよう活動を継続していきたいと思っています。

各委員が地域福祉の担い手としての自覚を持つとともに資質の向上を図るため、介護をはじめとする各種の福祉情報、個人情報保護、人権関係などの研修を実施しています。

一方、最近、民生委員・児童委員の担い手不足や高齢化が顕在化しており、泉佐野市民児協でも今後の活動のあり方について検討を始めています。委員の負担の軽減や役割の明確化、協働体制の強化、研修のあり方、担い手の確保などの項目別に検討する予定です。

今後も継続して活動していきますよう、より良い民児協をめざします。



民生委員・児童委員さん

●富田林市民生委員児童委員協議会●

活動しやすい環境づくりのために 「フォローアップ研修」を開催



1期目の新任委員を
対象に研修を実施



活発な意見交換で
具体的なアドバイスも

富田林市民児協では、1期目の民生委員・児童委員を対象に、就任からおよそ1年半を経過した頃に「フォローアップ研修」を開催しています。DVD研修や、先輩委員を交えてのグループ討議により、日頃の民生委員活動での疑問や不安を解消し、活動しやすい環境づくりに役立てています。

今回、対象となったのは平成25年の一斉改選で初めて民生委員・児童委員、主任児童委員になった52名。はじめに、DVDを見ながら相談・支援活動のポイントについて学び、その後、6つのグループに分かれ、この1年半の間に起きた困った点や具体的な活動内容、引継ぎの問題などについて話し



グループに分かれ、それぞれの地区の活動について意見交換

合いました。1グループに新人8名、先輩2〜3名ずつの少数による意見交換なので、各グループとも活発な発言が飛び交いました。

グループ討議では、新任委員と先輩委員が積極的に意見交換。「どこまで支援したらいいのか」という質問については「民生委員はパイプ役。何か困った事があればすぐに行政や専門機関につないでください」という先輩委員のアドバイス。また、「民生委員として地域でどのような活動をすればいいのか」という質問には、「福祉委員会や自治会活動と連携して地域の中で役割分担することが重要」と先輩委員が熱心に答えていき、新任委員がメモを取る姿も多く見られました。

最後に、「フォローアップ研修」を企画した企画研修部会の田中部会長から「今後も、このような会合を活用し、お互いの抱えている問題を出し合いたい機会にしていきたい」との挨拶があり、研修会は無事終了。後日、参加者からは、「他の地区の活動を聞けてよかった」「皆さんも自分と同じ気持ちであることが分かって安心した」などの感想が寄せられました。

民生委員・児童委員としての意識を高め、活動の負担や悩みを一人で抱え込まないことを目的として、1期目の委員を対象にフォローアップ研修を行っている富田林市民児協の皆さん。日頃抱えている疑問や悩みを共有し、話し合うことで、新任委員の円滑な活動支援に取り組んでいます。



フォローアップ研修でアドバイス役を担当した富田林市民児協の役員の方々の皆さん



新任委員の方は、日頃の悩みを相談したり、他地区の意見を参考にしたり



欠員を減らすために 研修をスタート

富田林市民児協の山本会長が会長に就任したのは平成19年で、富田林市の欠員数は、当時、非常に多い状況でした。原因を調べると、新しい民生委員の定着率が悪く、1期、もしくは2期で辞める方が多いことが判明。その理由として、「引継ぎの時に聞いた仕事以上に、やってみると負担が大きい」「引継ぎがほとんどなく、状況が分からないまま1期が終わってしまい、続ける気にならない」と言った意見が聞かれました。

「こうした状況から、平成19年の一斉改選で初めて民生委員になった方からフォローアップ研修を開始しました。皆さんの抱える課題を、私たちが吸収・フォローし、今後の取り組みにつなげていく目的で始めたんです」と山本会長は話されます。



「もっと委員が活動しやすくなる環境を整えたい」と富田林市民児協会長の山本俊雄さん

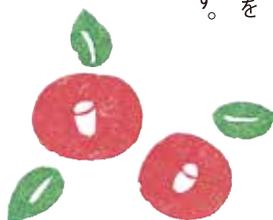


来年の一斉改選では 欠員0を目標に

山本会長は、欠員地区の町会の会合にも積極的に出向き、民生委員の役割や業務、少子高齢化による必要性を訴え、地域の中から民生委員を推薦してもらえよう働きかけました。おかげで、平成16年の一斉改選では19名あった欠員が、平成25年には4名まで改善されました。

「児童の問題からひとり暮らし、寝たきりの高齢者問題など、民生委員・児童委員の業務は多岐にわたります。福祉委員会や老人会など各団体の協力を得て、地域のことは地域で見守る体制作りを図っていきたくと思っています」と言う山本会長。

欠員0をめざして、このような体制づくりも視野に入れながら、当面は、府営住宅など長年欠員になっている地区の区割りの見直しなど、来年の一斉改選に向けて準備を進めています。



民児協だより



ファーびっくりした!



ウサギってふわふわ



〔北摂ブロック〕島本町 一日里親事業

昭和54年に始まった「一日里親事業」は、その後36年間継続し、今では民児協の大きな事業になっています。

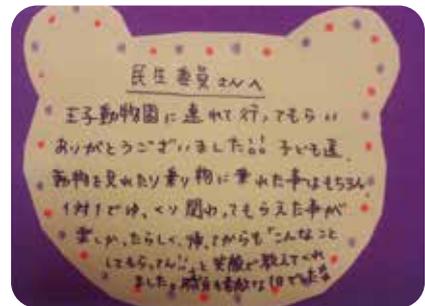
町内にある児童養護施設『大阪水上隣保館遥学園』の就学前の子どもと民生委員・児童委員がペアになって祖父母と孫のように、夏の日を楽しみます。あらかじめ子どもたちの性格を先生からお聞きして組み合わせを考えます。平成19年からは王子動物園に行っています。

朝、車で顔合わせです。おやつをもらってはにかみながら手をつなぎ乗車。車中でおしゃべりをしながら、気持ちもほぐれ仲良くなります。

動物園ではまず先にパンダ舎へ。キリンやぞうに歓声があがります。遊園地も楽しみの一つです。お楽しみの乗り物でリラックス。レストランでの昼食も「残さず食べようね」とまるで祖父母のようです。

楽しかった一日も終わり、駅での別れの時は、お互いにさみしさがつります。迎えのバスの中から手をふっている笑顔が心に残ります。後日、子どもたちから可愛い絵と手紙が寄せられます。あらためてこの事業の必要性を感じます。

島本町民児協
広報部会



お礼の手紙も寄せられます

(記号)		(記号)	
	一人暮らし高齢者 (ピンク)		災害時要援護者 (赤で特を認む)
	寝たきり高齢者 (青)		災害時要援護者 (赤で特を認む)
	高齢者世帯 (黄)		災害時要援護者 (赤で特を認む)
	区長・民生委員 (緑)		消防署 (赤)
	避難場所 (オレンジ)		消防栓 (赤)
	危険場所 (ピンク)		消火栓 (赤)
	避難経路 (オレンジ)		AED (赤)
	病院 (赤)		AED設置場所 (赤)
	公衆電話 (赤)		

市内24地区分の地図を上記のように色分けし、一目で要援護者がわかるように作成されている



『要援護者マップ』の作成風景『要援護者マップ』を地区ごとに作成する。作成数:地区の民生委員数+9部(行政、社会福祉協議会、地域包括支援センター3か所、消防署警察署、地区の区長と自主防災会会長)

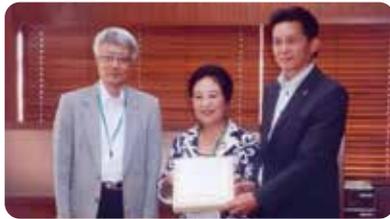
〔河北ブロック〕四 條 畷 市

『要援護者マップ』の作成と関係機関との共有

いつ起きても不思議ではないと言われている南海巨大トラフ地震や台風などの風水害等の災害に備え、四條畷市民生委員児童委員協議会では、災害時に支援の必要性が高い要援護者を把握し、その情報を活用するための取り組みとして、平成21年度から『要援護者マップ』(以下、『マップ』と略称)を作成し、関係機関と情報を共有しています。

を共有しています。

『マップ』は、民生委員・児童委員が3年に一度実施する在宅高齢者実態調査の結果をベースにして作成されます。個々の民生委員・児童委員が担当する地域のひとり暮らし高齢者・寝たきり高齢者・高齢者のみの世帯を地図上に色分けして地区ごとに集成し、市内24地区で作成しています。もちろん、災害時等に個人情報に関係機



(市内24地区分の)『要援護者マップ』を四條畷市に提供(市長室にて)右から土井一憲市長、石原会長、福田災害時要援護者支援活動委員長

関に開示することに同意を得た方々だけを表示しています。

『マップ』は民生委員・児童委員が各自保有するだけでなく、行政・社会福祉協議会・地域包括支援センター・消防署・警察署といった関係

機関の長及び地域の区長や自主防災会会長に、趣旨説明と個人情報に関する取扱い注意説明を行った上で手渡されます。



『マップ』を関係機関や地域と共有することで、日頃の安否確認や災害時の救出・避難支援に役立つことを願っています。

『マップ』の作成と関係機関への提供とは別に、民生委員・児童委員は市からの委託を受け、ひとり暮らし高齢者、寝たきり高齢者、高齢者世帯に対し、氏名・生年月日・血液型・緊急連絡先・かかりつけの医療機関名・服薬内容・保険証番号等を記載して冷蔵庫に保管しておく「緊急連絡カード」を配布し、機会あるときに管理状況を確認しています。『マップ』ともども、もしもの場合の備えになればと願っています。

四 條 畷 市 民 児 協

民児協だより



「河南ブロック」松原市

第7回ちびっこひろば

人口約12万人の松原市には、民生委員・児童委員160名と主任児童委員15名が、6地区に分かれてさまざまな活動をしています。

民児協主催行事の中でも、毎年10月に松原市民体育館で開催される「ちびっこひろば」は全地区が参加する最大

規模の行事となっています。今年で7回目を迎えるこの行事に、子どもたちと保護者合わせて約500名が来てくれました。

各地区で工夫を凝らしたコーナーを設け、子どもたちに、体を動かしての遊びや、工作してもらいました。また、



狙うは的のだ真ん中



上手く釣れるかな



いつも人気者、マッキー

劇団クルルテの人形劇も上演され、おとぎ話の世界を楽しんでもらいました。イベント後半には、松原市のマスコットキャラクター「マッキー」も登場し、会場を盛り上げました。

開催までの打ち合わせや準備、当日の行事運営は大変ですが、子どもたちと保護者の笑顔を見ると、そんな苦労も忘れ、「来年もまた来てね」と思うのでした。

松原市民児協

〔泉州ブロック〕 阪南市

地域の子育て支援 ～親子教室への協力～



阪南市民児協では少子・核家族化が進む中、子育てに悩む親が地域で孤立することを防ぐため、見守り支援の一つとして地域子育て支援センター事業、親子教室「ちっちこっこくらぶ」への協力を行っています。この事業は平成20年に始まり、市内5カ所で毎月1回開催されて

います。対象は1歳～小学校就学前までの幼稚園、保育所に通っていない子どもとその保護者で、1回に25組の親子が参加されています。

協力している委員からは、
● 子育ての不安や生活環境等の相談を受ける事もあり、子育ての先輩としてアドバイスできる

● 地域で出会った時も声掛けがしやすくなり、接する機会が増えた

● 普段、小さな子どもと接する機会が少ないので、現在の子どもの発達状態や興味が理解できるようになった

● 一緒に体を動かすことで自分の健康にも繋がり、楽しく協力させてもらっているとの感想が寄せられています。

また、利用者からは、子育てしている中で些細な思いを安心して話せるいい機会に



楽しく親子交流

なっているとの声が聞かれます。

平成28年3月に、この「ちっちこっこくらぶ」の合同交流会が開催されます。民生委員・児童委員も協力し、これからも地域の見守り活動に積極的に関わってまいります。

阪南市民児協



親子教室の様子

大阪府民児協連主任児童委員連絡会では、さらなる資質向上や市町村域を超えたネットワーク作りを目指し、ブロック事業を実施しています。

民児協会長が

主任児童委員研修会に参加

平成27年10月23日(金)、泉佐野市で「平成27年度第2回泉州ブロック主任児童委員研修会」が開催されました。泉州ブロックでは、年3回、12市町の主任児童委員による研修会や情報交換が行われています。もともと、泉州ブロックでは民児協会長が参加することもありますが今年度から、正式に会長に研修会の参加を呼びかけました。

開会にあたり、泉佐野市の市長が「多様な問題を抱える地域社会において、主任児童委員さんの活躍はますます重要です。これからお力を借りながら、皆で支え合い、顔と顔でつながるまちづくりを進めてまいります」とあいさつ。次いで、泉佐野市民児協会長が「児童の問題は、家庭だけでなく、地域にも何か役目があるはず。今日の研修がみなさんのお力になれば幸いです」とあいさつを述べました。

学校の現状を知り、 地域とのかかわりに 理解を深める

講演会には、元中学校校長でもある、泉佐野市学校支援コーディネーターの浦部健一氏を講師にお招きし、『子どもの健全育成に向けた地域のかかわりについて』と題して、学校における生徒指導の現状についてお話いただきました。その後、グループ討議を行い、主任児童委員活動における学校や地域とのかかわりについて、意見交換が行われました。

参加した各市町の民児協会長からは、「学校の立場が理解できた。主任児童委員と連携して、貧困や虐待についても地域としてやっていきたい」「いつでも協力するので、主任児童委員はもつと声かけてほしい」など、積極的な意見が聞かれました。



泉佐野市学校支援コーディネーター
浦部健一氏



民児協会長らの意見交換の様子

「会長さんもブロック会議に参加することで、主任児童委員の活動や子どもと学校の関わりについて理解を深めていただき、児童の問題を民児協全体で取り組んでいけると嬉しいです」と泉佐野市主任児童委員連絡会代表の赤坂佳代さん。今後も、会長と主任児童委員の連携を強め、多様化する児童の問題にも積極的な取り組みを進めたいと考えています。



泉佐野市主任児童委員
連絡会代表
赤坂佳代さん



34号 読者プレゼント

本誌でご紹介した素敵な商品を抽選でプレゼントします。

FAX・HP
から

たくさんのご応募お待ちしております!



1 パズル(ねこ) 2名様
とクッキーセット



2 ミニパズルと
マグネットと
クッキーセットA



3 ミニパズルと
マグネットと
クッキーセットB

応募方法

必要事項をもれなくご記載いただき、締切日までにFAXまたは本会ホームページの応募フォームからご応募ください。

応募締切 平成28年3月18日(金)
午後5時必着

必要事項

①氏名(ふりがな)②住所③電話番号④所属(民生委員・児童委員、関係機関職員、その他)
⑤希望する商品番号⑥一言コメント(本誌へのご意見・ご要望などお気軽にお寄せください)

宛先 大阪府民生委員児童委員協議会連合会事務局

[FAX]06-6762-9487

[H P]http://www.osakafusyakyoo.or.jp/minkyoo/



《33号の当選者》おめでとうございます! 羽曳野市F・Aさん、守口市O・Mさん、四條畷市H・Aさん、枚方市T・Yさん

皆さんご応募ありがとうございました!

事務局だより

平成30年は大阪府民生委員
(方面委員)制度創設100周年

平成27年10月に市町村民生協会長
にアンケートを実施。企画の柱について
ご意見をいただきました。

企画の柱

- ① 記念大会の開催
(参加対象・府内41市町村民生協)
- ② これまでの活動・取組みのまとめ
(記念誌の作成等)
- ③ 民生委員・児童委員についてのPRや
社会への発信・提言について
(PRグッズ作成、調査活動、街頭イベント等)

平成28年3月には100周年記念事業
実行委員会(仮称)を立ち上げ、平成28年
度から本格的に準備を進めていきます。内
容については随時お知らせいたしますので
ご協力よろしく願っています!!

ご存知ですか?

民生委員・児童委員

一斉改選に向けて、民生
委員・児童委員候補者や地
域住民、自治会など関係機
関・団体に活動をPRする
ためのパンフレットを本会で
ご用意しております。

ぜひ、活用したいというご
要望がありましたら市町
村民児協事務局を通じて
お申し込みください。
お待ちしております!!



パンフレット
ありますよ!!

民生委員・児童委員が

応援団!!

わがまち

★逸品★

能勢町民児協

Vol.1

表紙の商品の紹介

社会福祉法人
能勢むらびと福祉会

むらびと
夢来人の家
能勢町手をつなぐ
親の会のみなさん

表紙を飾るかわいいパズルは、社会福祉法人 能勢むらびと福祉会「夢来人の家」の作品です。夢来人の家は、生活介護と就労継続支援B型サービスを行う多機能型事業所で、現在23名が通所しています。

自主製品の木工パズルは、お正月や雛祭りといった四季折々の絵柄を中心に、干支や童話、動物などをモチーフにしたカラフルな色彩が特徴です。季節感のある絵柄は、玄関などの飾りに愛用されているお客様も。乗り物や動物など、小さなお子様向けのパズルは、大きいピースで遊びやすいよう工夫を凝らしています。

主な販売場所は、能勢町の道の駅や池田市の授産ショップ、箕面の滝道にあるお土産屋さんなど。お子さんやお孫さんへのプレゼントに買われる方も多く、春の新入学や秋の観光シーズンは生産が追いつかないほど、好評です。

利用者さんの主な作業は、サンドペーパーで小さなパーツを丁寧に磨き、表面をなめらかにすること。パズル作りでは、一番手間のかかる根気のいる作業です。デザインやパーツの切断は、熟練したスタッフが行います。



パズル制作と内職作業のチームに分かれ、仕事をを行います。



ひとつひとつ丁寧にパズルの台を磨く利用者さん



季節感のあるカラフルなパズルはインテリアとしても人気

「木工パズルのほか、内職や喫茶店での接客など、それぞれのできることを活かしながら、体験的な要素を取り入れて、皆さんに社会参加していただいています」と施設長の坂井幸一さん。授産活動を通じて、毎日楽しく生活しながら、地元のお祭りやバザーにも積極的に参加し、地域の方との交流も深めています。

一方、利用者の保護者でつくる「能勢町手をつなぐ親の会」も、週に1回みんなで集まり、マドレーヌやクッキーなどのお菓子作りを行っています。特に、手づくりのマドレーヌは人気で、地元能勢の新鮮な卵を使うなど、材料にもこだわっています。能勢町の道の駅などで販売し、その売上で、施設に車いすを寄贈するなどしています。夢来人の家では、保護者や地域住民が連携し、利用者の方々が地域でいきいきと暮らしていけるよう援助活動に取り組んでいます。



マドレーヌはこだわりのオリジナルレシピ



「マドレーヌは美味しくて手土産にも好評。皆さんの活動を応援しています」と話す能勢町民児協会長の岩崎昭雄さん

★注文・お問い合わせ先★

〒563-036 豊能郡能勢町森上138-2

TEL.FAX.072-734-2586

編集後記

子どもたちが巻き込まれる本当に悲しい事件が相次いでいます。地域の大人が子どもたちに何ができるのか、皆さんと一緒に私も考えてみたいと思います。

日々お忙しいことと思います。ご自愛ください。

Well ウェル おおさか

vol.34
(通巻68号)



発行日: 平成28年2月

発行: 大阪府民生委員児童委員協議会連合会

事務局: 大阪市中央区中寺1-1-54 大阪府社会福祉協議会内

TEL.06-6762-9486 FAX.06-6762-9487

URL <http://www.osakafusyakyoo.or.jp/minkyoo/>



QRコードから
簡単アクセス